

DOCKET NO.: 264734US3PCT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Mitsuru KURIHARA et al.

SERIAL NO.: NEW U.S. PCT APPLICATION

FILED: HERewith

INTERNATIONAL APPLICATION NO.: PCT/JP03/08082

INTERNATIONAL FILING DATE: June 26, 2003

FOR: STICK-TYPE COSMETIC CONTAINER

**REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119
AND THE INTERNATIONAL CONVENTION**Commissioner for Patents
Alexandria, Virginia 22313

Sir:

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicant claims as priority:

COUNTRY
Japan**APPLICATION NO**
PCT/JP02/07670**DAY/MONTH/YEAR**
29 July 2002

Certified copies of the corresponding Convention application(s) were submitted to the International Bureau in PCT Application No. PCT/JP03/08082. Receipt of the certified copy(s) by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.

Respectfully submitted,
OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.



C. Irvin McClelland
Attorney of Record
Registration No. 24,124
Surinder Sachar
Registration No. 34,423

Customer Number

22850

(703) 413-3000
Fax No. (703) 413-2220
(OSMMN 08/03)

BEST AVAILABLE COPY

26.06.03

日 本 国 特 許 庁

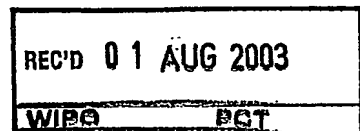
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類は下記の出願書類の謄本に相違ないことを証明する。
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2002年 7月29日

出 願 番 号
Application Number: PCT/JP02/07670

出 願 人
Applicant(s): 株式会社コーセー
栗原 充
中村 三誠
岩崎 一次
今別付 繁人
荒井 啓

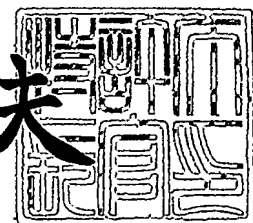


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003 年 7 月 17 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証平 15-500192

BEST AVAILABLE COPY

0	受理官庁記入欄	
0-1	国際出願番号.	PCT/JP02/07670
0-2	国際出願日	29.07.02
0-3	(受付印)	PCT International Application 日本国特許庁
0-4	様式-PCT/RO/101 この特許協力条約に基づく国際 出願願書は、 0-4-1 右記によって作成された。	PCT-EASY Version 2.92 (updated 01.06.2002)
0-5	申立て 出願人は、この国際出願が特許 協力条約に従って処理されるこ とを請求する。	
0-6	出願人によって指定された受理 官庁	日本国特許庁 (RO/JP)
0-7	出願人又は代理人の書類記号	PF-020010-W0
I	発明の名称	スティック状化粧料用容器
II	出願人	
II-1	この欄に記載した者は	出願人である (applicant only)
II-2	右の指定国についての出願人で ある。	米国を除くすべての指定国 (all designated States except US)
II-4ja	名称	株式会社コーセー
II-4en	Name	KOSE Corporation
II-5ja	あて名:	103-8251 日本国 東京都 中央区 日本橋3丁目6番2号
II-5en	Address:	6-2, Nihonbashi 3-chome Chuo-ku, Tokyo 103-8251 Japan
II-6	国籍 (国名)	日本国 JP
II-7	住所 (国名)	日本国 JP
III-I	その他の出願人又は発明者	
III-I-1	この欄に記載した者は	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-I-2	右の指定国についての出願人で ある。	米国のみ (US only)
III-I-4ja	氏名(姓名)	栗原 充
III-I-4en	Name (LAST, First)	KURIHARA, Mitsuru
III-I-5ja	あて名:	350-1396 日本国 埼玉県 狭山市 富士見2-20-1 株式会社コーセー内
III-I-5en	Address:	c/o KOSE Corporation 2-20-1, Fujimi Sayama-shi, Saitama 350-1396 Japan
III-I-6	国籍 (国名)	日本国 JP
III-I-7	住所 (国名)	日本国 JP

III-2	その他の出願人又は発明者	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-2-1	この欄に記載した者は	米国のみ (US only)
III-2-2	右の指定国についての出願人である。	
III-2-4j	氏名 (姓名)	中村 三誠
III-2-4e	Name (LAST, First)	NAKAMURA, Mitsunobu
III-2-5j	あて名:	350-1396 日本国 埼玉県 狭山市 富士見2-20-1 株式会社コーセー内
III-2-5e	Address:	c/o KOSE Corporation 2-20-1, Fujimi Sayama-shi, Saitama 350-1396 Japan
III-2-6	国籍 (国名)	日本国 JP
III-2-7	住所 (国名)	日本国 JP
III-3	その他の出願人又は発明者	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-3-1	この欄に記載した者は	米国のみ (US only)
III-3-2	右の指定国についての出願人である。	
III-3-4j	氏名 (姓名)	岩崎 一次
III-3-4e	Name (LAST, First)	IWASAKI, Kazutsugu
III-3-5j	あて名:	350-1396 日本国 埼玉県 狭山市 富士見2-20-1 株式会社コーセー内
III-3-5e	Address:	c/o KOSE Corporation 2-20-1, Fujimi Sayama-shi, Saitama 350-1396 Japan
III-3-6	国籍 (国名)	日本国 JP
III-3-7	住所 (国名)	日本国 JP
III-4	その他の出願人又は発明者	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-4-1	この欄に記載した者は	米国のみ (US only)
III-4-2	右の指定国についての出願人である。	
III-4-4j	氏名 (姓名)	今別府 繁人
III-4-4e	Name (LAST, First)	IMABEPPU, Shigeto
III-4-5j	あて名:	103-8251 日本国 東京都 中央区 日本橋3丁目6番2号 株式会社コーセー内
III-4-5e	Address:	c/o KOSE Corporation 6-2, Nihonbashi 3-chome Chuo-ku, Tokyo 103-8251 Japan
III-4-6	国籍 (国名)	日本国 JP
III-4-7	住所 (国名)	日本国 JP

特許協力条約に基づく国際出願願書

原本(出願用) - 印刷日時 2002年07月29日 (29.07.2002) 月曜日 10時17分22秒

PF-020010-WO

III-5	その他の出願人又は発明者	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-5-1	この欄に記載した者は	米国のみ (US only)
III-5-2	右の指定国についての出願人である。	
III-5-4j a	氏名(姓名)	荒井 啓
III-5-4e n	Name (LAST, First)	ARAI, Kei
III-5-5j a	あて名:	103-8251 日本国 東京都 中央区 日本橋3丁目6番2号 株式会社コーセー内
III-5-5e n	Address:	c/o KOSE Corporation 6-2, Nihonbashi 3-chome Chuo-ku, Tokyo 103-8251 Japan
III-5-6	国籍(国名)	日本国 JP
III-5-7	住所(国名)	日本国 JP
IV-1	代理人又は共通の代表者、通知のあて名 下記の者は国際機関において右記のごとく出願人のために行動する。	代理人 (agent)
IV-1-1ja	氏名(姓名)	小野 信夫
IV-1-1en	Name (LAST, First)	ONO, Nobuo
IV-1-2ja	あて名:	101-0024 日本国 東京都 千代田区 神田和泉町1-13-1 水戸部ビル4階
IV-1-2en	Address:	Mitobe Bldg. 4F 1-13-1, Kandaizumi-cho Chiyoda-ku, Tokyo 101-0024 Japan
IV-1-3	電話番号	+81-3-5687-9870
IV-1-4	ファクシミリ番号	+81-3-5687-9840
IV-1-5	代理人登録番号	8632
IV-2	その他の代理人	筆頭代理人と同じあて名を有する代理人 (additional agent(s) with same address as first named agent)
IV-2-1ja	氏名	秦 正則(11584)
IV-2-1en	Name(s)	HATA, Masanori(11584)
V	国の指定	
V-1	広域特許 (他の種類の保護又は取扱いを求める場合には括弧内に記載する。)	AP: GH GM KE LS MW MZ SD SL SZ TZ UG ZM ZW 及びハラレプロトコルと特許協力条約の締約国である他の国 EA: AM AZ BY KG KZ MD RU TJ TM 及びユーラシア特許条約と特許協力条約の締約国である他の国 EP: AT BE BG CH&LI CY CZ DE DK EE ES FI FR GB GR IE IT LU MC NL PT SE SK TR 及びヨーロッパ特許条約と特許協力条約の締約国である他の国 OA: BF BJ CF CG CI CM GA GN GQ GW ML MR NE SN TD TG 及びアフリカ知的所有権機構と特許協力条約の締約国である他の国

特許協力条約に基づく国際出願願書

原本（出願用） - 印刷日時 2002年07月29日（29.07.2002）月曜日 10時17分22秒



PF-020010-W0

V-2	国内特許 (他の種類の保護又は取扱いを 求める場合には括弧内に記載す る。)	AE AG AL AM AT AU AZ BA BB BG BR BY BZ CA CH&LI CN CO CR CU CZ DE DK DM DZ EC EE ES FI GB GD GE GH GM HR HU ID IL IN IS JP KE KG KP KR KZ LC LK LR LS LT LU LV MA MD MG MK MN MW MX MZ NO NZ OM PH PL PT RO RU SD SE SG SI SK SL TJ TM TN TR TT TZ UA UG US UZ VN YU ZA ZM ZW
V-5	指定の確認の宣言 出願人は、上記の指定に加えて 、規則4.9(b)の規定に基づき、 特許協力条約のもとで認められ る他の全ての国の指定を行う。 ただし、V-6欄に示した国の指 定を除く。出願人は、これらの 追加される指定が確認を条件と していること、並びに優先日か ら15月が経過する前にその確認 がなされない指定は、この期間 の経過時に、出願人によって取 り下げられたものとみなされる ことを宣言する。	
V-6	指定の確認から除かれる国	なし (NONE)
VI	優先権主張	なし (NONE)
VII-1	特定された国際調査機関 (ISA)	日本国特許庁 (ISA/JP)
VIII	申立て	申立て数
VIII-1	発明者の特定に関する申立て	-
VIII-2	出願し及び特許を与えられる国 際出願日における出願人の資格 に関する申立て	-
VIII-3	先の出願の優先権を主張する国 際出願日における出願人の資格 に関する申立て	-
VIII-4	発明者である旨の申立て (米国 を指定国とする場合)	-
VIII-5	不利にならない開示又は新規性 喪失の例外に関する申立て	-
IX	照合欄	用紙の枚数
IX-1	願書 (申立てを含む)	5
IX-2	明細書	13
IX-3	請求の範囲	2
IX-4	要約	1
IX-5	図面	14
IX-7	合計	35
	添付書類	添付
IX-8	手数料計算用紙	✓
IX-9	個別の委任状の原本	✓
IX-17	PCT-EASYディスク	-
IX-18	その他	納付する手数料に相当する 特許印紙を添付した書面
IX-18	その他	国際事務局への振込みを証 明する書面
IX-19	要約書とともに提示する図の番 号	
IX-20	国際出願の使用言語名:	日本語

特許協力条約に基づく国際出願願書

PF-020010-W0

原本（出願用） - 印刷日時 2002年07月29日（29.07.2002）月曜日 10時17分22秒

X-1	提出者の記名押印		
X-1-1	氏名(姓名)	小野 信夫	
X-2	提出者の記名押印		
X-2-1	氏名(姓名)	秦 正則	

受理官庁記入欄

10-1	国際出願として提出された書類 の実際の受理の日	29.07.02
10-2	図面：	
10-2-1	受理された	
10-2-2	不足図面がある	
10-3	国際出願として提出された書類 を補完する書類又は図面であつ てその後期間内に提出されたも のの実際の受理の日（訂正日）	
10-4	特許協力条約第11条(2)に基づ く必要な補完の期間内の受理の 日	
10-5	出願人により特定された国際調 査機関	ISA/JP
10-6	調査手数料未払いにつき、国際 調査機関に調査用写しを送付し ていない	

国際事務局記入欄

11-1	記録原本の受理の日	
------	-----------	--

明 細 書

スティック状化粧料用容器

技術分野

本発明は、スティック状化粧料用容器に関し、更に詳細には、内部に充填したスティック状化粧料のみを交換することのできるスティック状化粧料用容器に関する。

背景技術

外筒を回転させることにより、内部に充填されたスティック状化粧料が出没するスティック状化粧料用容器は、使用のしやすさ等の理由から、口紅を始め、リップクリーム、コンシーラー等の化粧料用容器として広く使用されている。

従来のスティック状化粧料用容器は、例えば、図１に示すように、外筒１０、スリーブ２およびスティック状化粧料を充填した内皿７から構成される。図１において、右側の図は、内皿７のみ実体的に示した断面図であり（但し、スティック状化粧料は図示しない）、左側の図は、スリーブ２のみ外した状態の断面図を示す。

このうち、内皿７の外周下部には小突起８が、スリーブ２には内皿ガイド溝３が設けられ、また、外筒１０の内面にはネジ１１が切られている。そして、内皿７の小突起８は、スリーブ２の内皿ガイド溝３に沿って外筒１０のネジ１１の回転に従い上下し、これにあわせてスティック状化粧料が出没する機構となっている。

このように、内皿７の小突起８は、スリーブ２の内皿ガイド溝３に沿って外筒１０の回転に従い上下するのであるが、これがどこまでも動く

のであれば、最終的には内皿 7 がスリーブ 2 から脱落してしまうことになるので、内皿 7 の小突起 8 の移動は一定の範囲に限定することが必要である。このために、従来のスティック状化粧料用容器では、内皿ガイド溝 3 の両端を閉じたり、外筒内面のネジ 1 1 を最後まで切らないようにして、内皿 7 の脱落を防止していた。

以上のような構造を有する従来のスティック状化粧料用容器は、使い切りの容器とした場合は問題はないが、詰め替えや交換などを考えた場合は非常に使用しにくいものである。すなわち、内皿が脱落しないように構成されているので、内皿自体の交換は、一旦化粧料用容器を分解してから行う必要があった。

ところで、近年、資源節約やリサイクルの動きの広がりに伴い、化粧品でも詰め替えや交換のできるものが好まれているが、スティック状化粧料用容器については、上記した事情により、スティック状化粧料のみの交換が可能なものは未だ提供されていないというのが実情であった。

従って本発明は、簡単に詰め替え、交換を行うことができるものでありながら、通常の使用時においては、内皿の脱落の問題のないスティック状化粧料用容器の提供をその課題とするものである。

発明の開示

本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討を行った結果、外筒の内面に切られたネジにより内皿が上下するという特性を利用すれば、詰め替え、交換と内皿の脱落の防止を両立させることができることを着想し、本発明を完成した。

すなわち本発明は、外筒、スリーブおよびスティック状化粧料を充填可能な内皿を含み、内皿に設けられた小突起がスリーブに設けられた内皿ガイド溝でガイドされ、外筒の内面に切られたネジにより当該小突起

が上下に移動し、内皿に充填されたスティック化粧料を出没させるスティック状化粧料用容器において、スリーブに設けられた内皿ガイド溝の下端を開放するとともに、当該内皿ガイド溝の下部に、小突起が収納される凹部を設けたスティック状化粧料用容器を提供するものである。

また、本発明は、上記スティック状化粧料用容器を用い、容器の底部から化粧料を充填することを特徴とするスティック状化粧料の調製方法を提供するものである。

図面の簡単な説明

第1図は、従来のスティック状化粧料用容器の構造を示す図面である。

第2図は、本発明のスティック状化粧料用容器の一態様の構造を示す図面である。内皿は最上部にある。

第3図は、第2図のスティック状化粧料用容器で用いるスリーブの形状を示す図面である。

第4図は、第2図のスティック状化粧料用容器で用いる内皿の形状を示す図面である。

第5図は、本発明の小突起の動きと内皿ガイド溝および小突起収納凹部の関係を示す図面である。

第6図は、第2図のスティック状化粧料用容器において、内皿を途中で下げた状態を示す図面である。

第7図は、第2図のスティック状化粧料用容器において、内皿を下げ、小突起を小突起収納凹部に収納した状態を示す図面である。

第8図は、本発明のスティック状化粧料用容器において、内皿に設けられた小突起の天面部と外筒の内面部が接触する態様を示す図面である。

第9図は、第8図において、小突起の天面部と外筒の内面部との接触状態を表した断面図である。

第 10 図は、本発明を構成するスリーブにおいて、停止部を設けた態様を示す図面である。

第 11 図は、スリーブに停止部を設けた態様において、小突起収納凹部と停止部との位置関係を示す部分拡大図である。

第 12 図は、封止手段の一態様を示した図面である。

第 13 図は、本発明のスティック状化粧料用容器 1 を用いて、化粧料をスティック状化粧料用容器 1 に充填し、その後スティック状化粧料を容器外部に繰り出して検査を行い、再度該化粧料を容器内に戻すまでの流れの一例を示した図面である。

第 14 図は、底部の形状の一例を示した図面である。

発明を実施するために最良な形態

以下、本発明の一実施態様を示す図面を挙げ、本発明を更に詳しく説明するが、本発明はこれに何ら制約されるものではない。

図 2 は、本発明のスティック状化粧料用容器の構造を示す図面であり、右側の図は、内皿のみ実体的に示した断面図であり、左側の図は、スリーブのみ外した状態の断面図である（但し、スティック状化粧料は図示しない）。図中、1 はスティック状化粧料用容器、2 はスリーブ、3 は内皿ガイド溝、4 は小突起収納凹部、5 はガイド溝端部、6 は内皿ストッパー、7 は内皿、8 は小突起、9 は化粧料保持用突起、10 は外筒、11 はネジをそれぞれ示す。

本態様のスティック状化粧料用容器 1 は、図 1 で説明したのと同様に、基本的には、内面にネジ 11 を切った外筒 10、スリーブ 2 およびスティック状化粧料を充填する内皿 7 から構成されるが、スリーブの形状と内面のネジ 11 が最後まで切られている点で相違する。

すなわち、本実施態様で用いるスリーブ 2 の形状を図 3 に示すが、ス

リーブ 2 の内皿ガイド溝 3 の下端部 5 において開放されている点、内皿ガイド溝 3 の下部に、小突起収納凹部 4 が設けられている点およびスリーブ 2 の下部に内皿ストッパー 6 が設けられている点において、従来のスティック状化粧料用容器で用いるスリーブと異なる。

また、これと組み合わせて用いられる内皿 7 の断面形状を図 4 に示す。この内皿は、先端のみが尖った円筒形状であり、また、尖った部分と円筒部分の境目には化粧料保持用突起 9 が存在し、充填したスティック状化粧料を内皿 7 に保持する。更に、円筒部分の下部には、小円筒状をなした小突起 8 が設けられている。

本発明のスティック状化粧料用容器 1 において、内皿ガイド溝 3 の下端部 5 が開放されており、また、外筒 10 のネジ 11 が最後まで切られているにもかかわらず、内皿 7 が下部から抜け落ちない機構は次の通りである。

すなわち、図 2 の状態のスティック状化粧料用容器 1 の外筒 10 を、スリーブ 2 を持って左に回転させることにより、外筒 10 の内側に切られたネジ 11 が内皿 7 の小突起 8 に対し下左の方向に力を与えることになる。しかし、この小突起 8 はスリーブ 2 の内皿ガイド溝 3 でガイドされているから、左に移動することはできず、下にのみ移動する。

この移動の状態を示した図面が図 5 である。図中、波線の円で示される小突起 8 は、斜めの線で示されるネジ 11 により、下左方向の力を与えられるが、左方向への移動は、内皿ガイド溝 3 で抑制されるから、内皿ガイド溝 3 の左端に沿って下方へ移動する。この途中の段階を、図 2 と同様にして示した図面が、図 6 である（但し、右側の図面では、外筒部分は省略した）。

このようにして外筒を左に回転させることにより、小突起 8 は押し下げられ、これに伴って内皿 7 自体も下がっていくが、内皿ガイド溝 3 の

下端部 5 に近い部分に小突起収納凹部 4 が設けられているため、それまで内皿ガイド溝 3 の左端で抑えられていた左向きの力が働くことになり、小突起 8 は、図 5 の二点鎖線の円で示される位置でなく、小突起収納凹部 4 に収納されることになる。そして、これ以上外筒 10 の回転を行おうとしても、小突起 8 は小突起収納凹部 4 で抑えられるため、更に下方へ動くことはできなくなる。この状態を図 2 と同様に示した図面が、図 7 である（但し、右側の図面では、外筒部分は省略した）。

更に、スリーブ 2 の下端に内皿ストッパー 6 を設けた場合は、これが下降してくる内皿 7 に対する抵抗となり、小突起 8 に働く力のうち、右方向からの力を強め、小突起収納凹部 4 に入りやすくなる。この内皿ストッパー 6 は、内皿 7 を完全に止めるものばかりではなく、接触することにより下方への動きに抵抗を生じさせるものであってもよく、例えば、スリーブ 2 下端内側に凸状の小突起を形成させる方法により設けることができる。

また、小突起 8 を小突起収納凹部 4 に入りやすくするための別の手段としては、図 8 に示すように、小突起 8 の天面部 8 a の少なくとも一部と外筒 10 の内面部 10 a とを接触させるようにする方法が挙げられる。この方法によれば、小突起 8 が内皿ガイド溝 3 内を上下移動する際に、図 9 に示すように小突起 8 の天面部 8 a の少なくとも一部と外筒 10 の内面部 10 a とが常に接触し抵抗が得られ、小突起 8 が小突起収納凹部 4 に入りやすくなるのである。なお、本態様をとるにあたっては、外筒 10 を上下の直径が同一な円筒状とすることが好ましく、この場合には外筒 10 の肉厚 t を薄くして弾力性を持たせるようにすることが好ましい。また、小突起 8 の天面部 8 a の一部を外筒 10 の内面部 10 a と接触させる手段としては、天面部 8 a の中央部を窪ませ、外周部のみで接触させる方法や、中央部にリブを設け、その部分のみで接触させる方

法等が挙げられる。

次に、図 7 の状態のスティック状化粧料用容器 1 から、スティック状化粧料を繰り出す（上方へ移動させる）には、上記した手段とは逆に、外筒 10 を右に回転させればよく、外筒 10 に設けられたネジ 11 の力により、小突起収納凹部 4 に収納されていた小突起 8 は、右上方向の力を受け、内皿ガイド溝 3 の右端に沿って上方へ移動し、それに伴って内皿 7 が上昇する。

このような機構により、下に抜け落ちることなく内皿 7 がスリーブ 2 内を上下するのであるが、内皿 7 に充填されたスティック状化粧料を使い切ったときは、以下の手段をとることにより簡単に内皿 7 ごと交換できる。

まず、内皿 7 を最下部まで移動させ、小突起 8 を小突起収納凹部 4 に収納する。次に、治具の利用などの適当な手段により、小突起 8 を小突起収納凹部 4 から図 5 の二点鎖線の円で示される位置に移動させる。ここまで移動させると、内皿ガイド溝 3 の下端部 5 は開放されているから、治具の動作により、内皿ストッパー 6 の抵抗を外せば、使用済みのスティック状化粧料は、容易に内皿 7 とともに取り出すことができる。

そして、その後、内皿に充填された新しいスティック状化粧料をスティック状化粧料用容器 1 の底部から挿入し、再度治具などを利用して小突起 8 を小突起収納凹部 4 に収納することによりスティック状化粧料の交換が終了する。

本発明のスティック状化粧料用容器 1 においては、あらかじめ内皿 7 にスティック状化粧料を充填し、これを容器 1 中に装着しても良いが、逆にスティック状化粧料を充填していない内皿 7 をスティック状化粧料用容器 1 に装着した後、熔融状態の該化粧料を化粧料用容器 1 の底部からスリーブ 2 ないし内皿 7 の中に所定量充填し、冷却等により固化させ

てスティック状化粧料を調製してもよい。

後者の調製方法に適したスティック状化粧料用容器 1 のスリーブ 2 の形状を図 10 に示す。

図 10 に示すスリーブ 2 は、その内皿ガイド溝 3 に設けられている小突起収納凹部 4 の下部に、更に停止部 14 を設けたものである（本形態の場合、小突起 8 は図の斜線丸の位置で停止する）。また、図 11 は、かかる態様において、小突起収納凹部 4 と停止部 14 との位置関係を示す部分拡大図である。本態様では、内皿ガイド溝 3 内の小突起収納凹部 4 の下部に、小さな凸部 14 a を 2 つ連続的に設け、該凸部 14 a に挟まれる部分を停止部 14 としている例である。また、「X」は、小突起収納凹部 4 の中心と停止部 14 の中心の間隔を示すものである。

このスリーブ 2 は、その開口部に装着される図 12 で示される封止手段 15 とともに用いられるものであり、スティック状化粧料において、スリーブ先端と化粧料先端面を一致させることが可能となるものである。

すなわち、スティック状化粧料の調製において、通常のカバーを用いて化粧料を充填すると、このカバーの隙間から化粧料が漏れだし、開口部の縁に化粧料が付着して商品価値を低下させるという問題が発生していた。

このような欠点は、充填において化粧料がスリーブ開口部にまでに達しない状態とすること、すなわち、内に達んだキャップを利用することにより解決可能ではあるが、使用開始時にスティック状化粧料がスリーブの開口部の位置まで達していないと、充填量の不足と思われる場合もあり、商品設計上好ましいことではなかった。

以上の問題に対して、スリーブ 2 の内皿ガイド溝 3 において小突起収納凹部 4 の下部に、更に小突起 8 の仮固定が可能な停止部 14 を設けるとともに、化粧料の充填成形時においてスリーブ 2 の開口部に封止手段

15を装着するようにした。また、該小突起収納凹部4および停止部14の間隔に合わせ、封止手段15に内側への窪みを設けることにより、スリーブ先端と化粧料先端面の位置関係を自由にコントロールでき、また、一致させることも可能となることを見出した。

図12は、上記目的のために使用される封止手段の一形態例であり、Aは斜視図、Bは断面図である。図中、15aは挿入部、15bは嵌合部、15cは空気孔である。

図10及び図11に表されるスリーブ2と、図12の封止手段15を含むスティック状化粧料用容器1を用いて、化粧料をスティック状化粧料用容器1に充填してスティック状化粧料を調製し、その後スティック状化粧料を繰り出して検査を行い、再度該化粧料を化粧料用容器1内に戻すまでの流れの一例を示せば、図13の通りである。

すなわち、まず、小突起8（図13中、黒く塗りつぶしてある部分）を停止部14に収納させた状態で、スリーブの開口部2aに封止手段15を被せ、封止手段15の挿入部15aと嵌合部15bで挟むことにより固定、封止する。次に、化粧料用容器1を逆にし、その底部から熔融状態のスティック状化粧料を充填すると、該化粧料は、斜線で示された部分まで充填され、次いで冷却・固化させ、スティック状化粧料16が成形・調製される（図13のA）。

充填成形後、スリーブの開口部2aから封止手段15を取り外すと、スリーブの先端側Yの長さの部分が充填されていない状態でスティック状化粧料16が得られる（同B）。次に、外筒10を右に回転させると、小突起8は停止部14から離れ、内皿ガイド溝3の右端に沿って動き、該ガイド溝3の左側に位置する小突起収納凹部4には収納されることなく上方に移動する。この時、スティック状化粧料16は、スリーブ2の面とは離れ、内皿7に固定された状態で上昇し、スリーブ開口部2aか

ら繰り出される（同C。矢印はスティック状化粧料16の進む方向を示す。以下Eも同じ）。

最大に繰り出された状態でスティック状化粧料16は検査等がなされ（同D）、この検査が終わったら、今度は外筒10を左に回転させると、小突起8は、内皿ガイド溝3の左端に沿って下方に移動し、スティック状化粧料16も内皿7の動きに従い下降する（同E）。そして小突起8は、最後には該ガイド溝3の左側下部に設けられる小突起収納凹部4に収納される（同F）。

このように本態様では、充填開始時の小突起8の位置（停止部14）と、出荷時の小突起8の位置（小突起収納凹部4）が異なるのであるが、この場合において、停止部14と小突起収納凹部4との間隔Xを、封止手段15の長さ（すなわち、先端側の未充填部Y）と合致するようにすれば、小突起8が小突起収納凹部4に収納された際に、スティック状化粧料16の先端面とスリーブの開口部2aとが一致することになり好ましい。そして、内に窪んだ封止手段15を用いるため、化粧料の充填時に、スリーブ開口部2aの縁から化粧料が漏れることもないので、該開口部2aの汚れの問題が起こることもないのである。

本態様における停止部14の形状は、化粧料の充填時に小突起8を停止しうるものであれば特に制限はないが、上記図10及び図11に示した態様のように、停止部14に固定される際に小突起8が中皿ガイド溝3の右端に沿って動きやすい形状にしておくことが好ましい。かかる形状にすることにより、化粧料を充填成形後、外筒10を右に回してスティック状化粧料16を繰り出す（小突起8を上昇させる）際に、該小突起8が右上方向の力を受けやすくなり、繰り出し時にスティック状化粧料16自体が回転せず、また、内皿ガイド溝3の右端に沿って上方への移動がスムーズに行われる。

上記の形態が好ましいのは、また、次の理由にもよる。すなわち、スティック状化粧料用容器 1 に充填された化粧料は、冷却固化される際に若干収縮するため、化粧料の外側面がスリーブの内側面から離れるのが通常であるが、稀に化粧料とスリーブが密着した状態のままで残る場合がある。かかる状態においては、外筒 10 を右に回してスティック状化粧料を繰り出すにあたって、該化粧料に回転する力が加わると、スリーブ 2 と化粧料が密着しているため化粧料が折れてしまったりする場合があるという問題があった。一方、停止部 14 を上記の態様とすることにより、小突起 8 が上方向の力のみを受けるため、繰り出し時にスティック状化粧料を回転させずに、スリーブ内側面から化粧料を剥離させることが可能となるのである。

なお、停止部 14 は、上記態様の如く内皿ガイド溝 3 における小突起収納凹部 4 の下部を、例えば図 10 や図 11 の形態のように加工することにより形成することが好ましい。また、図示しないが、小突起収納凹部 4 の下端部 4a を内皿ガイド溝 3 内に張り出すことにより形成してもよく、この形態でも、小突起 8 が内皿ガイド溝 3 の右端に沿って動きやすくなる。

また、本態様における封止手段 15 の形状は、スリーブ 2 の開口部を塞ぐことができるものであれば特に制限はないが、その長さ Y が、小突起収納凹部 4 と停止部 14 との間隔 X に一致しうるものが好ましい。更に、図 12 に示す態様のように、適当な空気孔 15c を設け、空気の入りが可能なものとしておけば、充填成形時の冷却に伴う化粧料の収縮に対して、スリーブ 2 内側面と化粧料との隙間に空気が流入し易くなり、化粧料の剥離がよりスムーズに行われるため好ましい。また、取り外しが簡便にできることから、カプセル状とすることが更に好ましい。なお、空気孔 15c の数は特に制限されないが、封止手段 15 の使い易さ、製

上記の形態が好ましいのは、また、次の理由にもよる。すなわち、スティック状化粧料用容器 1 に充填された化粧料は、冷却固化される際に若干収縮するため、化粧料の外側面がスリーブの内側面から離れるのが通常であるが、稀に化粧料とスリーブが密着した状態のままに残る場合がある。かかる状態においては、外筒 10 を右に回してスティック状化粧料を繰り出すにあたって、該化粧料に回転する力が加わると、スリーブ 2 と化粧料が密着しているため化粧料が折れてしまったりする場合があるという問題があった。一方、停止部 14 を上記の態様とすることにより、小突起 8 が上方向の力のみを受けるため、繰り出し時にスティック状化粧料を回転させずに、スリーブ内側面から化粧料を剥離させることが可能となるのである。

なお、停止部 14 は、上記態様の如く内皿ガイド溝 3 における小突起収納凹部 4 の下部を、例えば図 10 や図 11 の形態のように加工することにより形成することが好ましい。また、図示しないが、小突起収納凹部 4 の下端部 4a を内皿ガイド溝 3 内に張り出すことにより形成してもよく、この形態でも、小突起 8 が内皿ガイド溝 3 の右端に沿って動きやすくなる。

また、本態様における封止手段 15 の形状は、スリーブ 2 の開口部を塞ぐことができるものであれば特に制限はないが、その長さ Y が、小突起収納凹部 4 と停止部 14 との間隔 X に一致しうるものが好ましい。更に、図 12 に示す態様のように、適当な空気孔 15c を設け、空気の入りが可能なものとしておけば、充填成形時の冷却に伴う化粧料の収縮に対して、スリーブ 2 内側面と化粧料との隙間に空気が流入し易くなり、化粧料の剥離がよりスムーズに行われるため好ましい。また、取り外しが簡便にできることから、カプセル状とすることが更に好ましい。なお、空気孔 15c の数は特に制限されないが、封止手段 15 の使い易さ、製

造し易さの点から 3 ～ 4 個が好ましい。

ところで、図 1 1 に示される停止部 1 4 にある小突起 8 の位置は、スティック状化粧料の収納時の小突起収納凹部 4 の位置に対して、若干回転方向にずれている。この態様は、スティック状化粧料の先端の形状がスティック状化粧料の中心線に対し回転対称である場合には問題ないが、例えば、図 1 0 のように先端が傾斜を持たせたような場合は、上記回転方向のずれによりスティック状化粧料収納時にスリーブ 2 開口部端の面とスティック状化粧料先端面の方向が一致せず、仕上がりがきれいでなくなることがある。このような場合（図 1 0 の態様の場合）には、封止手段 1 5 を、このずれの分をあらかじめ補正した形状としておけば、両方の面を一致させることができるため好ましい。

なお、本発明のスティック状化粧料用容器 1 においては、底部からスティック状化粧料を出し入れしたり、スティック状化粧料を充填したりする場合がある関係から、底部がある程度開放されている必要があるが、このような状態は見栄えが良くないので、底部 1 2 を、例えば図 1 4 に示すような形状とし、通常の使用状態ではここにシールを貼付するようにしても良い。この底部 1 2 の穴の大きさは、内皿 7 より若干大きめのものとすればよく、切り欠き 1 3 も小突起 8 に対応するものとすればよい。

また、底部 1 2 に貼付するシールに、商品番号、色調等を記載しておけば、交換用のスティック状化粧料を購入する場合等に便利である。

本発明のスティック状化粧料用容器 1 は、上記したスリーブ 2 の形状および外筒のネジ 1 1 を最後まで切ってある点を除けば、従来より提供されていたスティック状化粧料用容器と材質、大きさ、形状等ほぼ同様のものとして調製することができる。すなわち、内皿の先端は尖った形状でなく他の形状でも良いし、使用するスリーブ 2 や、内皿 7、外筒 1

0の材質等としても、従来と同様各種の金属やプラスチックを利用することができる。更に、外筒10の外側を金属でカバーないしは被覆したり、種々の方法でコーティングしても良い。材質に関しては、金属、プラスチックの他にも紙やセラミックス等、形状を保持できる素材であれば使用可能である。

産業上の利用可能性

本発明のスティック状化粧料用容器は、使用時には内皿が脱落することはないが、スティック状化粧料を使用しきった場合には、簡単な治具の使用などで容易に交換できるものである。

従って、資源節約やリサイクルの可能なスティック状化粧料用容器として、口紅、リップクリーム、コンシーラー、皮膚美白用スティック、日焼け止めスティック等の化粧料に有利に使用することができるものである。

請 求 の 範 囲

1. 外筒、スリーブおよびスティック状化粧料を充填することが可能な内皿を含み、内皿に設けられた小突起がスリーブに設けられた内皿ガイド溝でガイドされ、外筒の内面に切られたネジにより当該小突起が上下に移動し、内皿に充填されたスティック化粧料を出没させるスティック状化粧料用容器において、スリーブに設けられた内皿ガイド溝の下端を開放するとともに、当該内皿ガイド溝の下部に、小突起が収納される凹部を設けたことを特徴とするスティック状化粧料用容器。
2. 内皿ガイド溝下部に設けられた、小突起が収納される凹部が、当該小突起を下に移動させる際に力を受ける側に設けられたものである請求項第1項記載のスティック状化粧料用容器。
3. 更に、スリーブ下端に内皿ストッパーが設けられたものである請求項第1項または第2項記載のスティック状化粧料用容器。
4. 小突起の天面部の少なくとも一部と外筒の内面部とが接触するものである請求項第1項または第2項記載のスティック状化粧料用容器。
5. 該内皿ガイド溝において、小突起が収納される凹部の下部に、更に、小突起を固定可能な停止部を設けたものである請求項第1項ないし第4項の何れかの項記載のスティック状化粧料用容器。
6. 請求項第1項記載のスティック状化粧料用容器を用い、該容器の底部から化粧料を充填することを特徴とするスティック状化粧料の調製方法。
7. 該内皿ガイド溝において、小突起が収納される凹部の下部に、更に、小突起を固定可能な停止部を設けるとともに、化粧料の充填時にスリーブの開口部に封止手段を装着することを特徴とする請求項第6項記載のスティック状化粧料の調製方法。

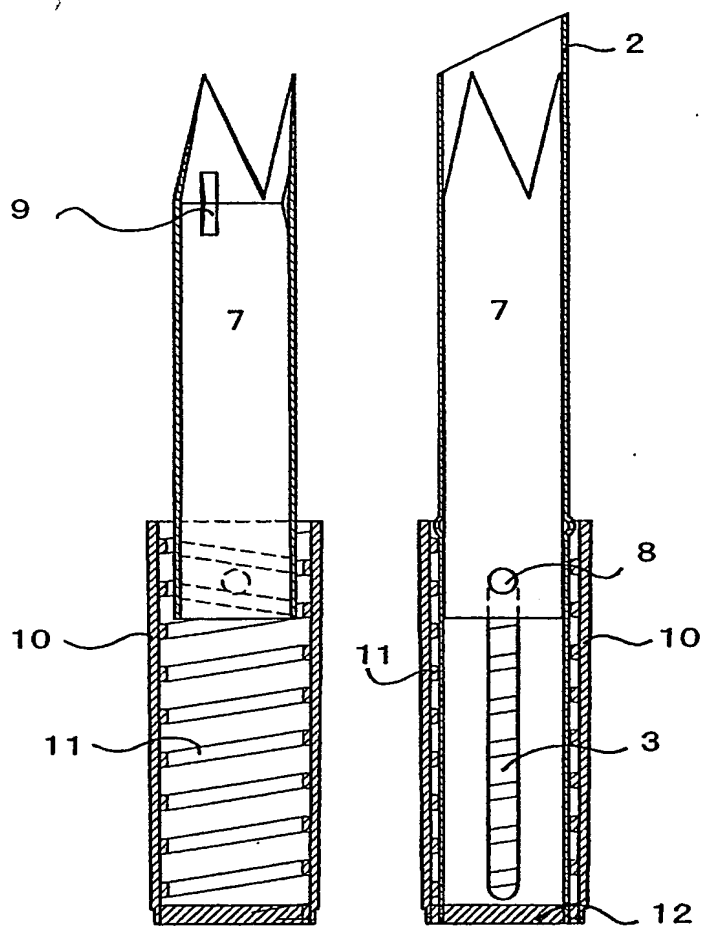
8. 小突起を収納する凹部と停止部の間隔と封止手段の長さを一致させることを特徴とする請求項第6項または第7項記載のスティック状化粧料の調製方法。

要 約 書

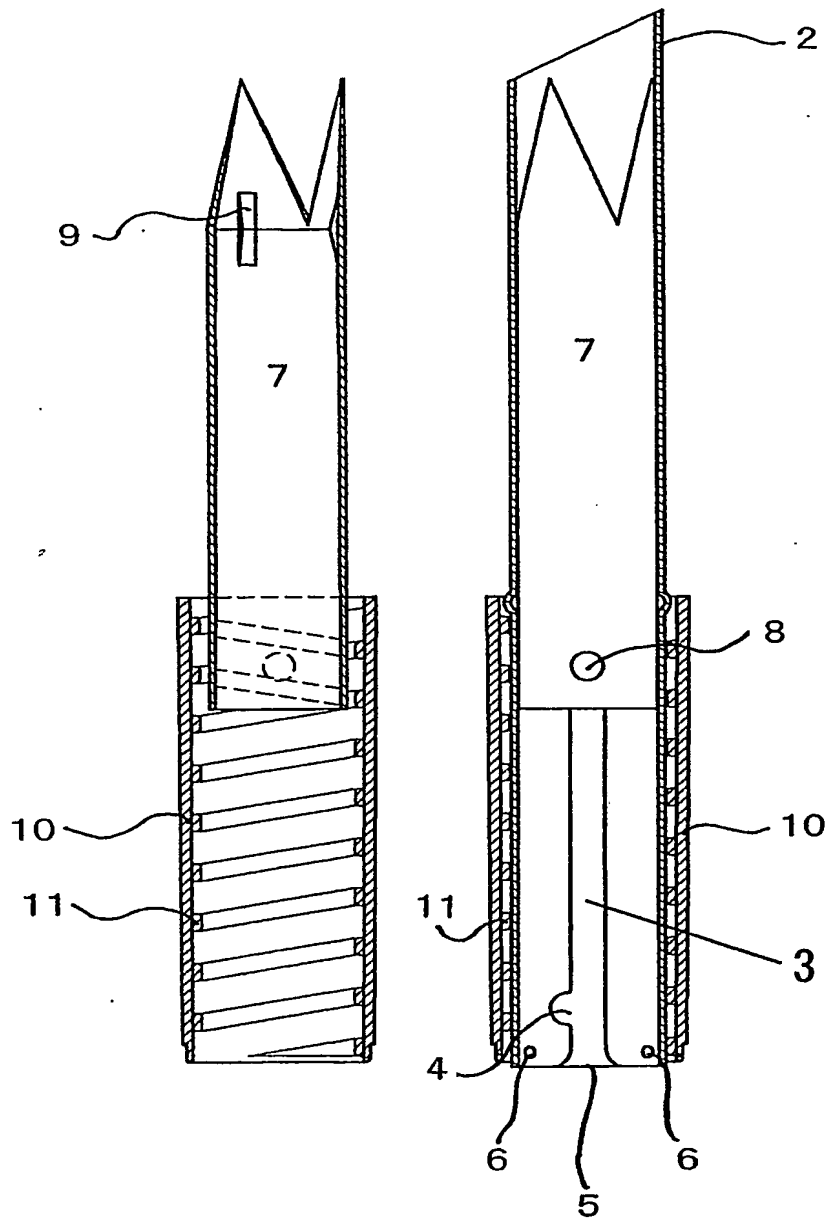
外筒、スリーブおよびスティック状化粧料を充填することが可能な内皿を含み、内皿に設けられた小突起がスリーブに設けられた内皿ガイド溝でガイドされ、外筒の内面に切られたネジにより当該小突起が上下に移動し、内皿に充填されたスティック化粧料を出没させるスティック状化粧料用容器において、スリーブに設けられた内皿ガイド溝の下端を開放するとともに、当該内皿ガイド溝の下部に、小突起が収納される凹部を設けたことを特徴とするスティック状化粧料用容器が開示されている。

本発明により、簡単な治具の使用などで詰め替え、交換を行うことができるものでありながら、使用時には、内皿の脱落の問題がない、口紅、リップクリーム、コンシーラー、皮膚美白用スティック、日焼け止めスティック等の化粧料に使用されるスティック状化粧料用容器を提供することができる。

第1図

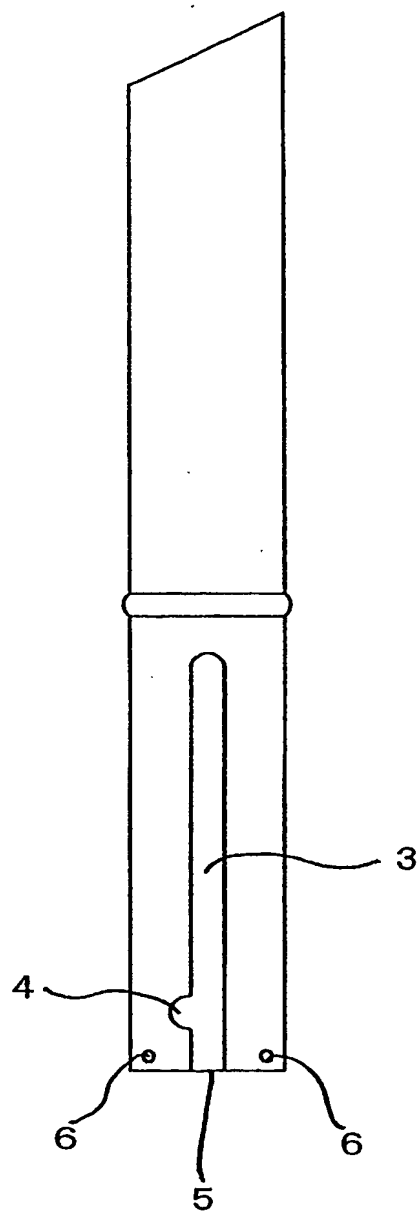


第2図



3 / 1 4

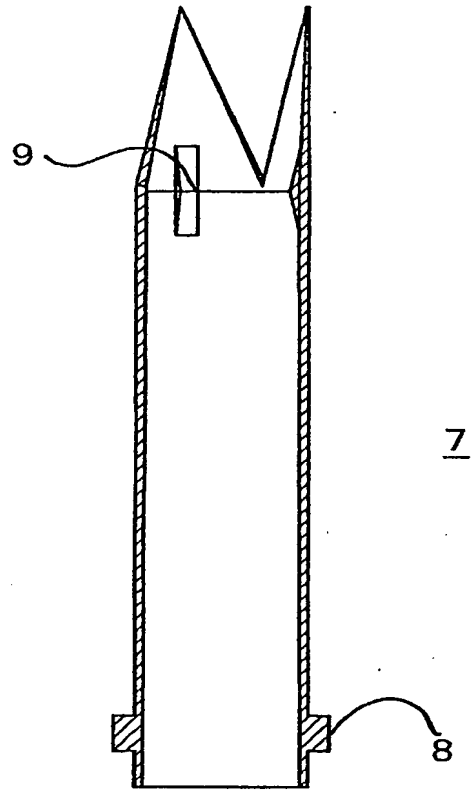
第3図



2

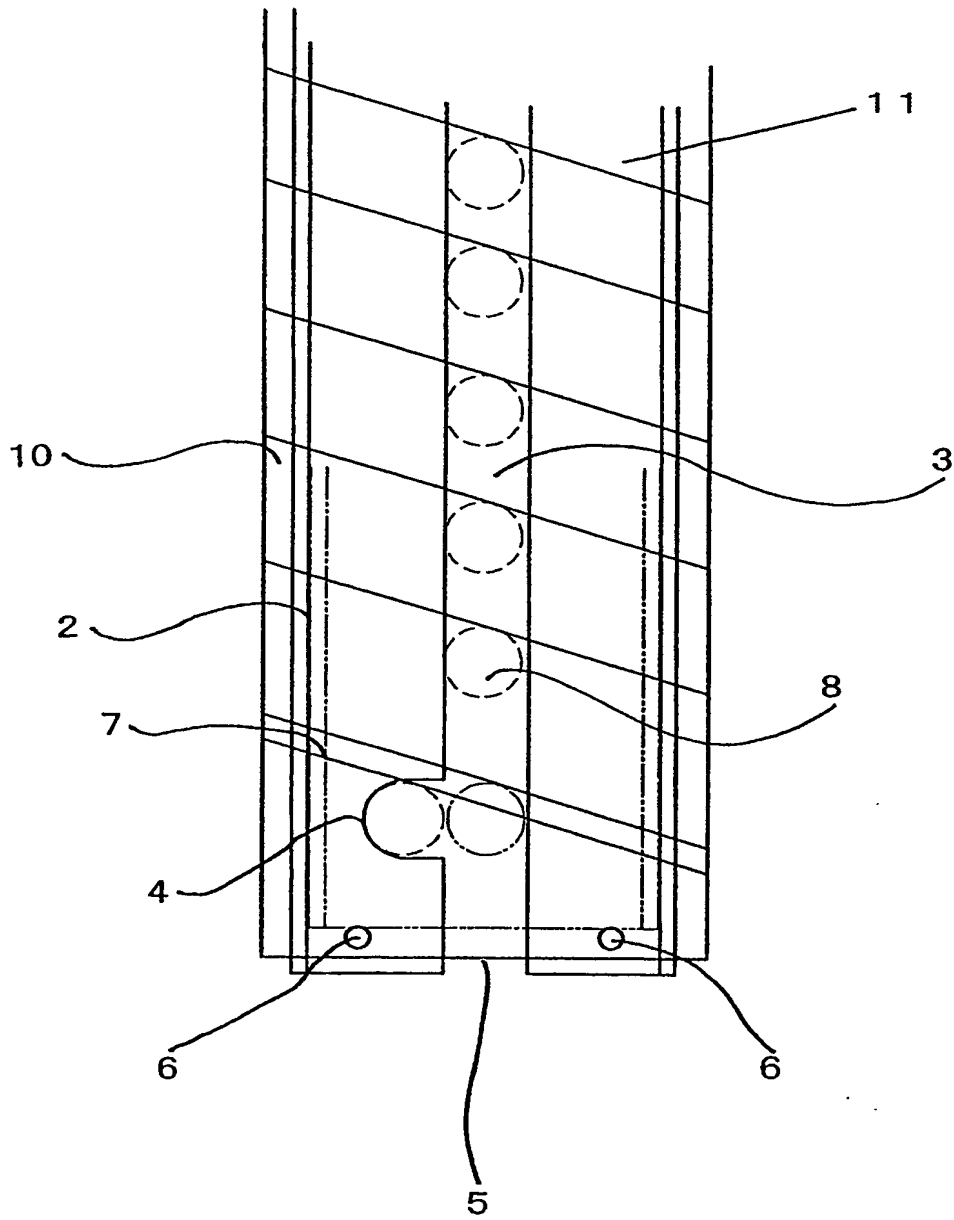
4 / 1 4

第4図



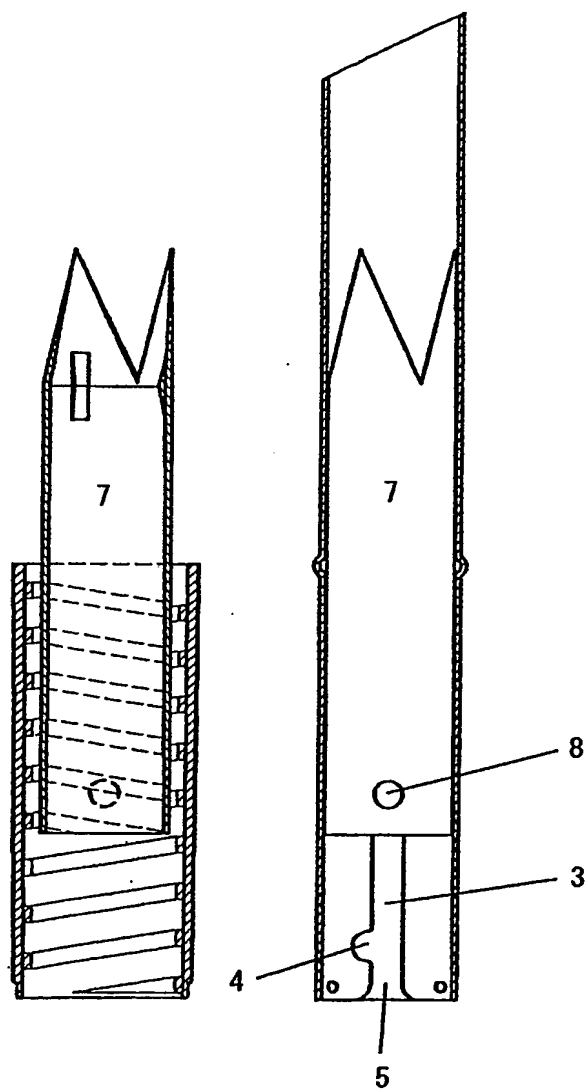
5 / 1 4

第5図



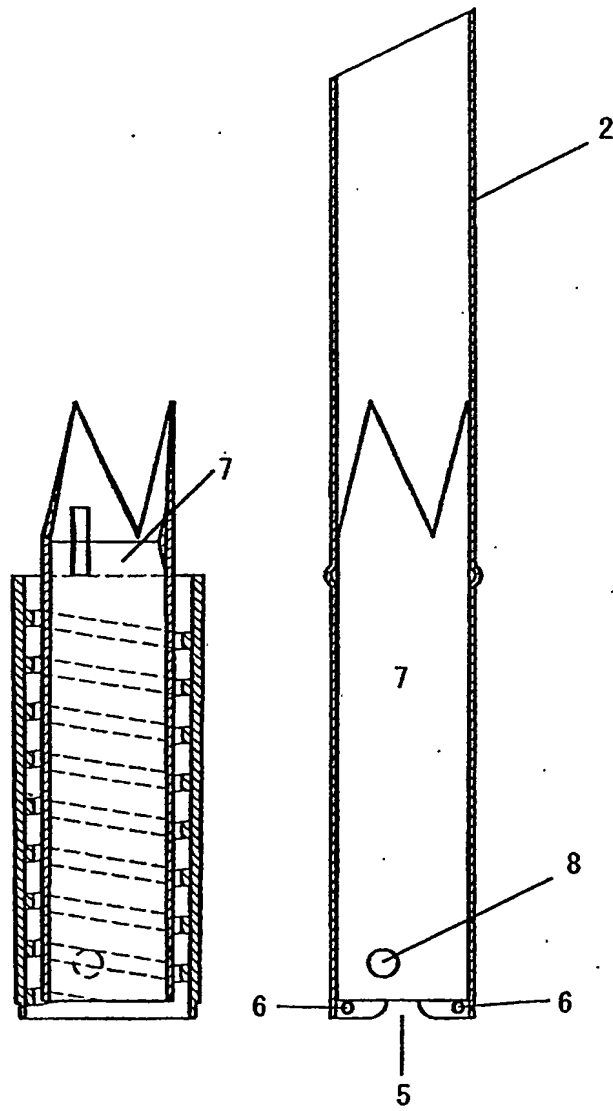
6 / 14

第6図

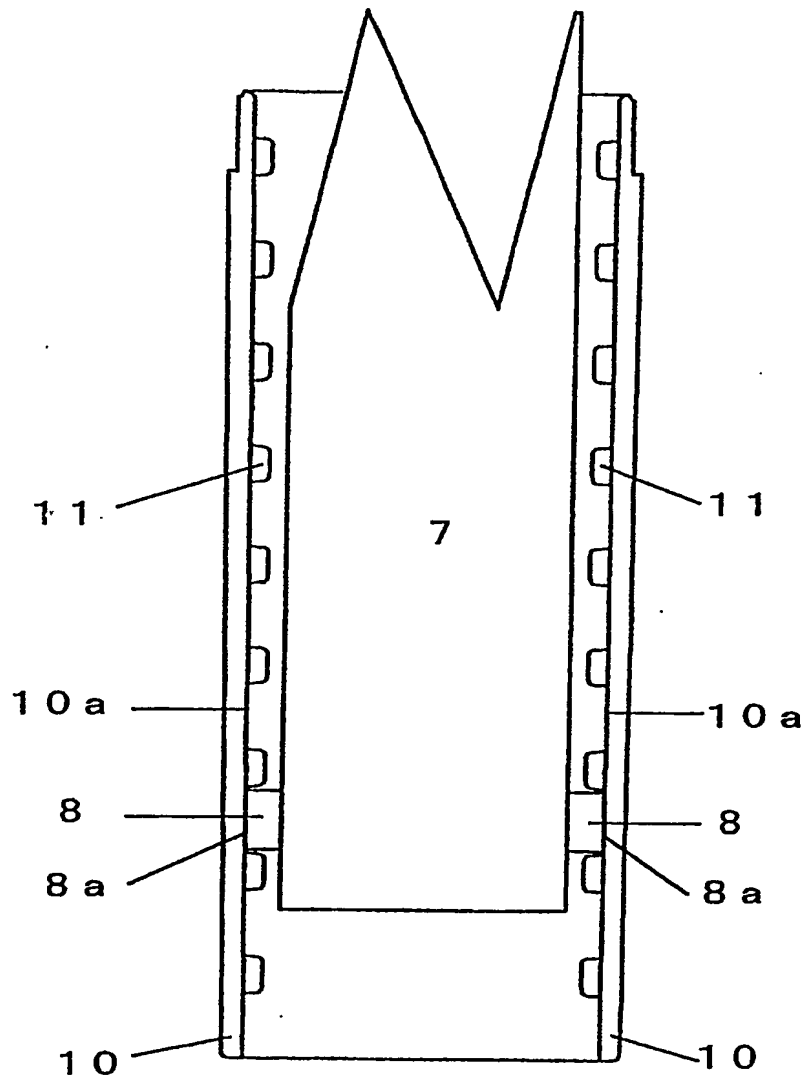


7 / 1 4

第 7 図

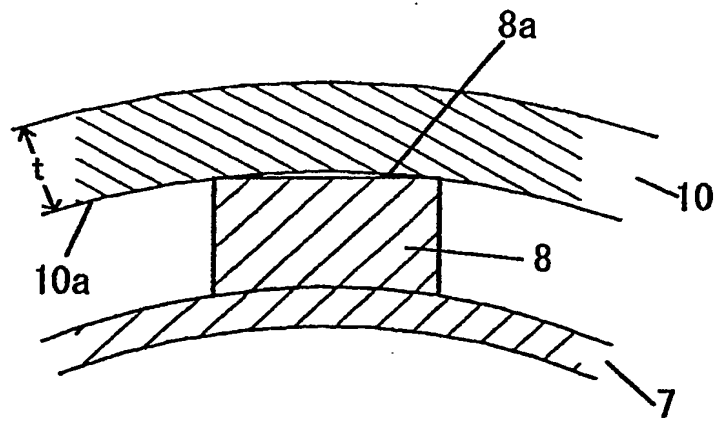


第8図



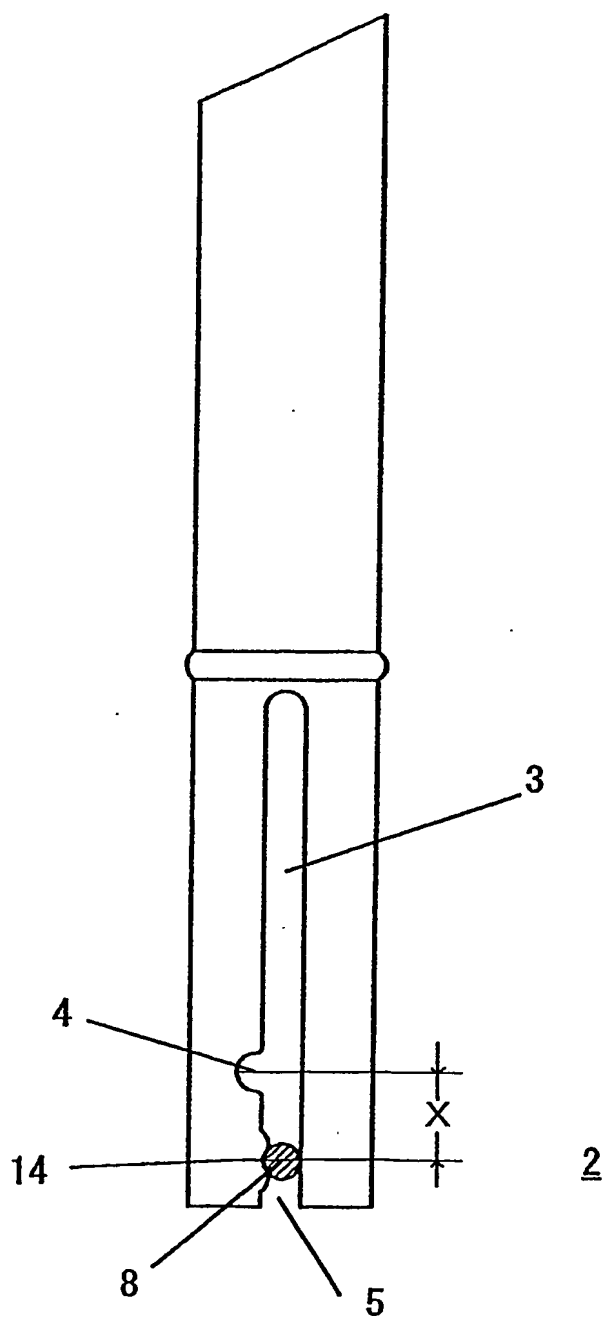
9 / 1 4

第 9 図



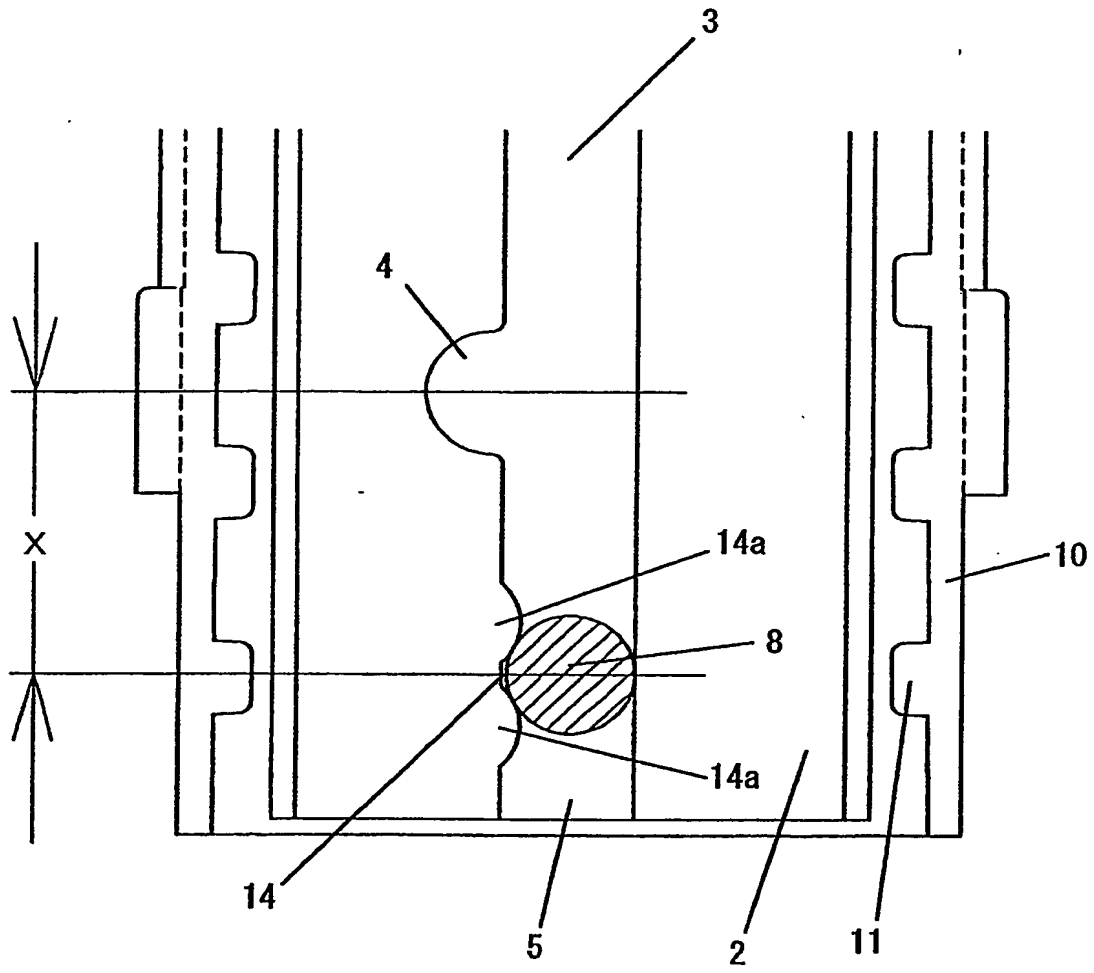
10 / 14

第10図



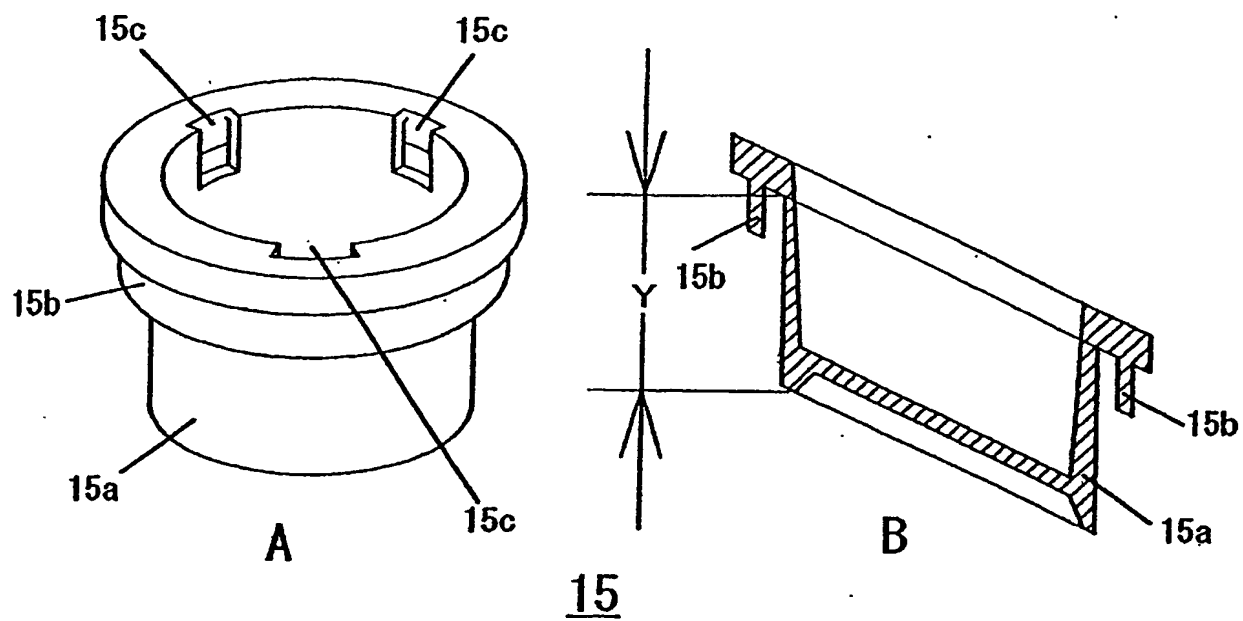
11 / 14

第 11 図



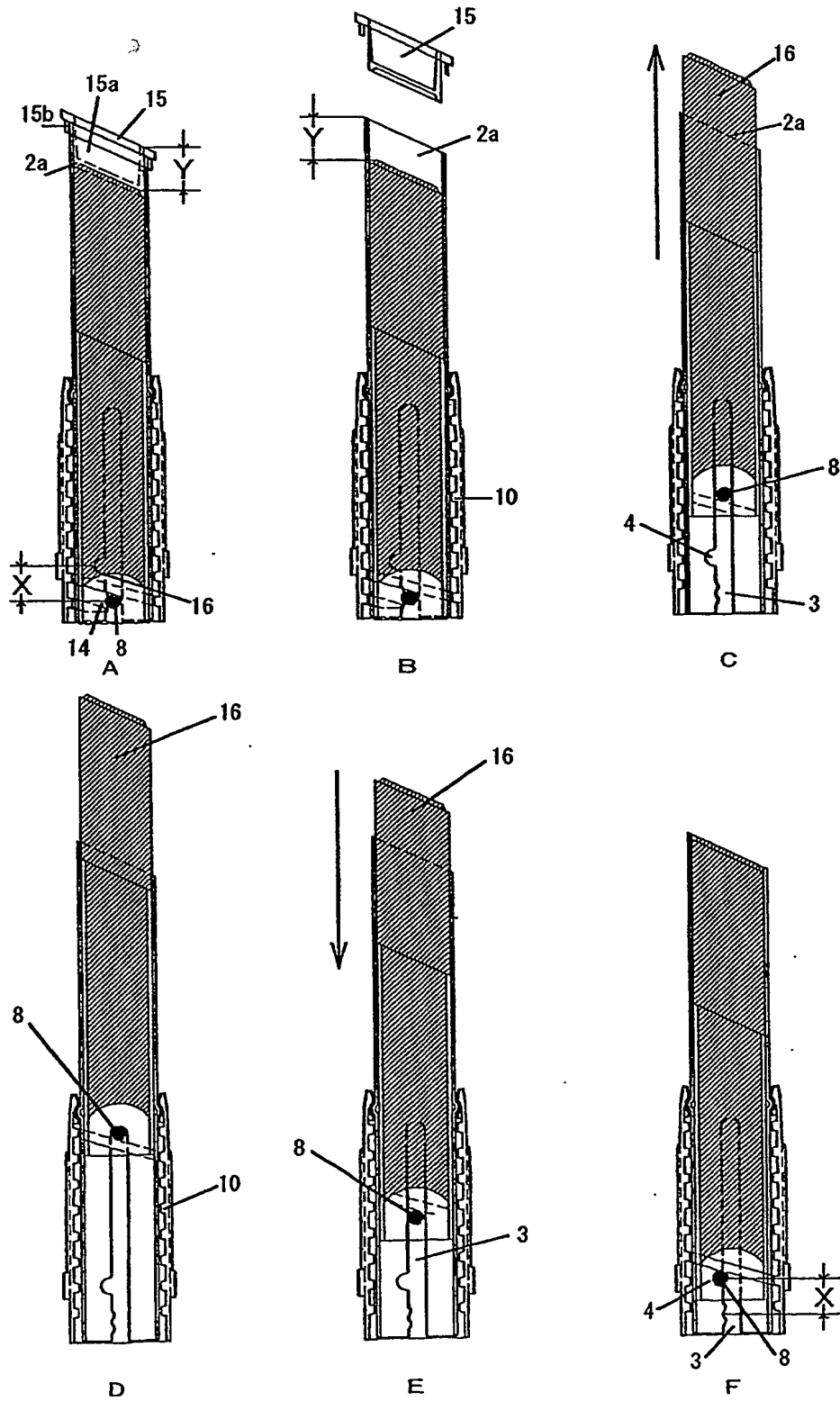
1 2 / 1 4

第 1 2 図



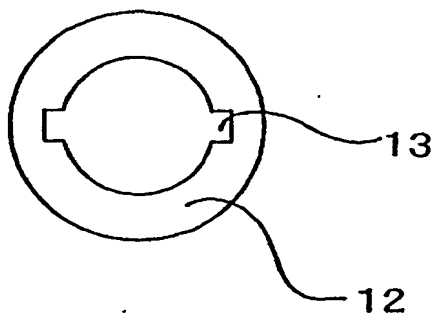
1 3 / 1 4

第 1 3 図



14 / 14

第14図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.